



花

夜

成年向け



枕
成年向け
夜





この責任――

どう取ってくれる
つもりだね



おまけに
荷だけではなく店の者にまで
怪我を負わせるとは……

……



に 荷物の損失分と
治療費は
お支払いします

ただ今すぐにすべて用意する
事は出来ないの
お許し頂けるのであれば
何回かに分けてご迷惑を
おかけした分と合わせ必ず――



ああ……
犬走さんだったかね
そういう話しじゃ
ないんだよ

今回の件は
もっと大きな問題だ



君は守矢神社の荷に
攻撃を仕掛けた

これは守矢二柱様への
攻撃と同じだ

君にとってはただの間違いでも
これは妖怪の山が守矢神社へ
宣戦布告したと捉えられても
おかしくない

仮に争いが起きなかったとしても
両者の間に溝が出来る事は
避けられない



なにそんなに
思いつめなくても
大丈夫だ

私が双方に出向き
今回の事は誤解であると
説明すれば解決する

まあそのかわりと
言ってはなんだが
一つ条件がある



……っ



わかるね



ほほうなかなか
上手いじゃないか

山の見回りより
こちらのほうが
向いてるのではないか？

ちゅる

ちゅる

んっ

んっ



んんう…っ

ピッ
ピッ

ちゅる



おお おお
こちらも
いい感じに撮れけて
おるのお

ちゅる



どれひとつ儂のを
味わってもらおうか

どろろ

ふんんっ!?



なに吐き出しとるんだ
飲み干さんか

かほっ
がほっ

ごえ...っ

ずみ...

ません...



よろしいんで?

ああ



おいマスなんぞ
かいてないで
こっちに来い



まったくほれ
さっさと服を脱げ

ごほっ
ごほっ

怪我した上に見てるだけでは
割に合わんだろ

これはお前の
お陰でもあるからな

はあ

妖怪の娘を犯せる機会など
そうそうないぞ

や…あつ

こっちも秘所を濡らして
物欲しそうにひくついとる

おはあ

存分に味わえ



それじゃあ
お言葉に甘えて
いただきますか

いや……っ

お願い……
待って……

やっぱり
こんなの……っ

すっ



いい加減
覚悟を決めんか

ああ……



何言っつてやがる

こんな濡らして
吸い付いてくる
クセによ

ちゅ



おおっ
どんどん奥へ
飲み込んでいきやがる

やあっ

抜いてっ
入れないでっ

すっ



こんなの…

ああ…
嘘…っ

いや…
やめて…



もう襲えよ
全部ぶち込んでやるッ

うああっ



ほら
動くぞ

おっ

おっ
おっ



ああっ

だめっ
動かないで……っ

やっ

あっ

お前に指図する
権利なんて無えんだろ

犯されて喘いでりや
いいんだよ

ぶっ

ぶっ

おね……っ

がい……っ

ぬい……っ
て……っ

はっ
力入れて締め付けられ
抜けるかもしれないぜ

ほれギョッって
やってみ
ギョッって

あっ

ああっ

ギョッ



そんな…っ

やめっ

あっ

おっ
少し締めてきた

グッ

グッ

ははっ
こいつマジで
やってやがる

あっ

ああっ

ああっ

こんなんじゃ
抜けねえぞ

ほれ早くしないと
中に出しちゃもうぞ

なか…っって

嘘っ

やめてえっ

動かないでっ
抜いてっ

あゝ無理無理
もう止まんねえわ

中を出すからな

いやあッ





私の中に……

私の……
なんで……



嘘じゃねえよ
見えんだろ

ああ

お前のマンコの中に
収まなくて
溢れてんのがよ



なんで……

私が……

なんで……



悲劇に浸かって
惚けとらんで
次は僕の番だぞ

え……っ
そんな……っ

だって
さっき……

何を言ってる
あの程度で
終わりのわけが
ないだろう

お前にはとことんまで
付き合ってもらおうぞ

そんな…っ

こんなの…っ

らやあ…っ

本当の年など知らんが
若い体をしているの
だけの事はあるの

女房のとは吸い付きが
まるで違うわ

俺のが欲しくて
堪らんと蠢いとる

あっ

あっ

ああっ

あっ

あああああっ

ズッ
ズッ
ズッ

ズッ
ズッ
ズッ

ズッ
ズッ
ズッ
ズッ
ズッ
ズッ
ズッ
ズッ
ズッ
ズッ

はっ
はっ
はっ

はっ
はっ
はっ



犬などとは比べ物に
ならんだろ



しかしどうだ
この姿――

ああっ

獣の耳と尾を
持つようなお前には
この格好が似合いだな

あっ
あっ

普段はそこらの
野犬に尻を
振つとるんだろ

人間のイチモツの
具合はどうだ？



うっ

あっ



ほれっ

わんわん



ははは
気持ちよすぎて
言葉も忘れたか

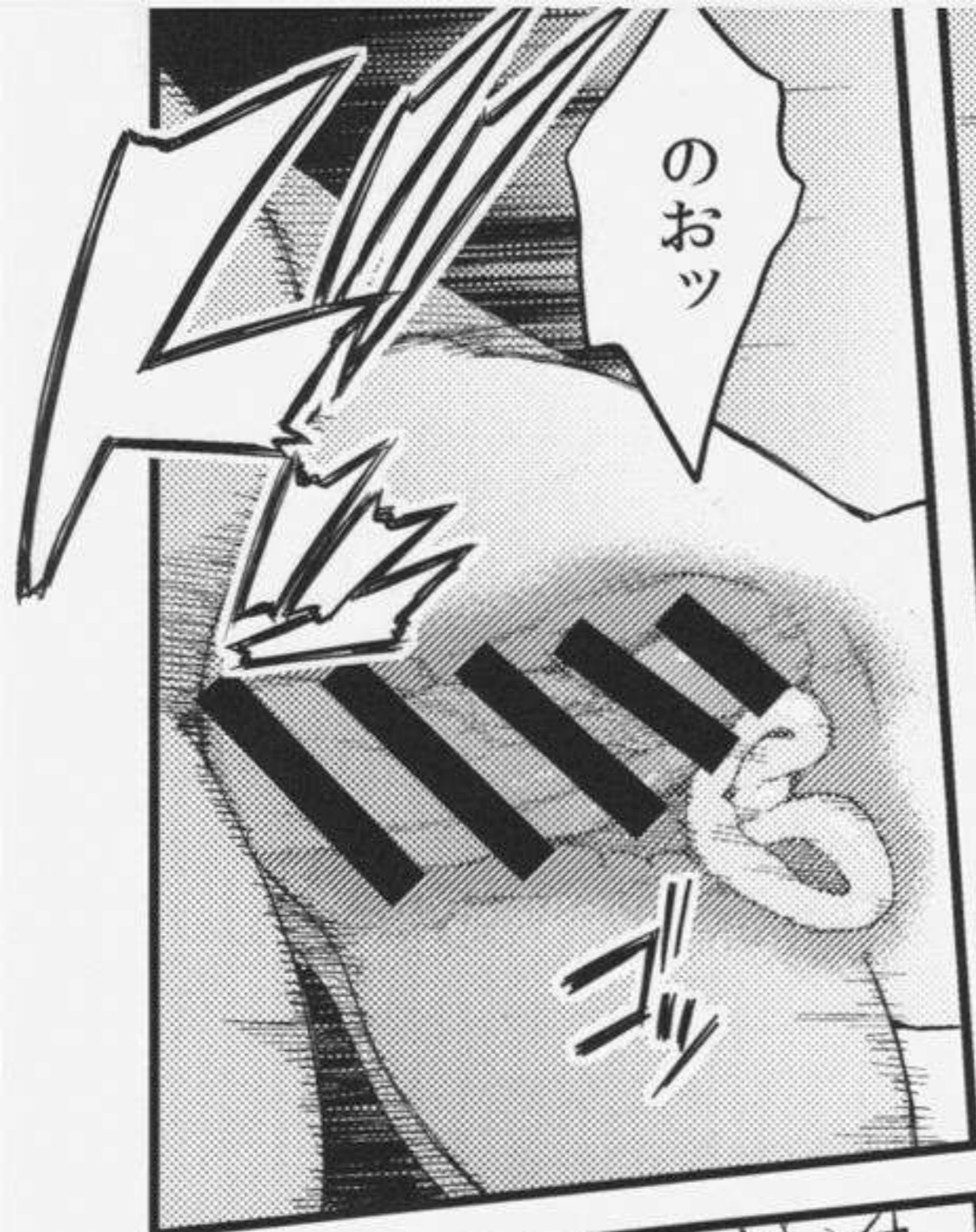
ははは

あっ
あっ
あっ

ははは

ははは

ああっ



のおツ



ほおう
まだそんな事を言う
気力が残ったか

お願い…
しますっ
これ以上は
もう…っ

はっ

ならまだまだ
これくらいは
いける—

はっ



あッ

あッ

あッ



おし今度は俺のを
しゃぶりな

無理とかそんな
聞いてねえよ

でも…

まったく
めんどくせえな

そんな…っ
今ツ無理…っ



んおっ

こうすんだよッ

んっ

んっ

おっ

んっ

ほれちゃんと
舌絡ませろ

んおっ

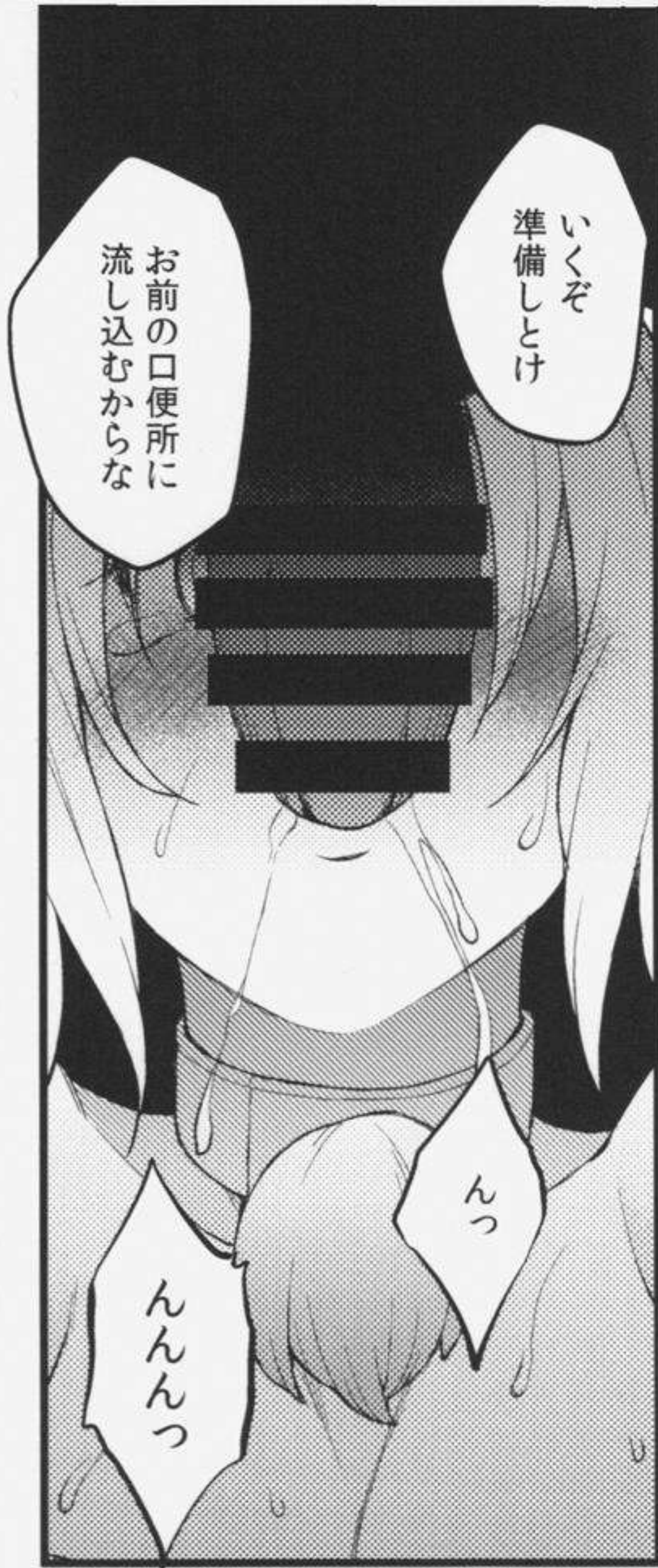
ぐっ

んで
こうすんだよッ

おっ

んっ

んっ







あああ

たしちやみえ

■■■■

ククク
ククク
ククク
ククク
ククク

ククク
ククク
ククク
ククク



ぜいえぎつ
ながに……

わたしのっ

だめっでえ……

出でるう



まだ止まらんぞ
出尽くすまで
尻を上げておけ

ククク

ククク

■■■■



あくあくあく
きたねえ音出して
ひり出してやがる
しっかしまたえらい量
出しましたね

だいぶ
ご無沙汰だったからな

ほお

ほお

あつ

それじゃあ
まだいけますかね？

当然
この程度で終わるのは
もったいないだろう



それに

妖怪がどれだけ
もつか試すのも
面白いだろう

^^^



さあ休憩は
終わりだ犬走さん

あ…

■奥付■

原作
発行

東方Project / 上海アリス幻楽団

広十練習帖 / 広弥

<http://hiroju.blog95.fc2.com/>

<http://www.pixiv.net/member.php?id=238117>

発行日
印刷

2015/5/10

ねこのじっぼ様

※18歳未満の閲覧、購入禁止 複製、無断転載禁止